

祝

令和7年度 美郷町社会福祉大会

＊大会テーマ＊

「^{ちから}つながりを力に～^{まち}安心・安全な地域 美郷をめざして～」



令和7年11月1日(土)

午後1時30分～3時30分

美郷町公民館

主 催 社会福祉法人 美郷町社会福祉協議会

後 援 社会福祉法人秋田県社会福祉協議会・美郷町・秋田県仙北地域振興局福祉環境部・秋田県南福祉事務所・社会福祉法人秋田県共同募金会・美郷町教育委員会・美郷町共同募金委員会・美郷町民生児童委員協議会・美郷町老人クラブ連合会・美郷町遺族会・美郷町分区赤十字奉仕団・青少年育成美郷町民会議・ＪＡ秋田おばこ干畑総合支店・美郷町更生保護女性会・美郷町商工会・社会福祉法人水交会「後三年鴻声の里」・社会福祉法人慈泉会・社会福祉法人六郷仙南福祉会「ロートピア緑泉」「ロートピア仙南」・大仙美郷介護福祉組合「真昼荘」・医療法人寿康会「杏授苑」・美郷地区少年保護育成委員会・公益社団法人美郷町シルバー人材センター・特定非営利活動法人みさぼーと・大曲人権擁護委員協議会（順不同）

本大会は赤い羽根共同募金配分金の一部が使われております

=趣旨=

近年、少子高齢化や人口減少、核家族・単身世帯の増加に伴う家族機能の低下や地域における住民・近隣関係の希薄化など、地域福祉への関心が薄れ社会全体の機能が低下してきています。また、世帯構造の変化による地域活動の担い手不足等の問題や生活課題の複雑化・複合化が進行し、現行の制度や支援だけでは十分に対応できないなど課題が浮き彫りとなってきたことから、今後の重点的課題として取り組んでまいります。

このような人と人との距離が遠く感じる状況から、地域や福祉関係以外の機関も含め様々な主体との連携・協働による地域づくり、地域の繋がりや絆が重要になってくるため、住民同士の支え合いによる生活支援や関係機関による総合的な相談体制の整備が求められています。

“みんなで支え合いよろこびあふれ湧くまち”を目指し、すべての人が多様な繋がりの中で、お互いを尊重し合い自分らしさを発揮できるよう、地域住民・行政・福祉団体・商工等の関係機関との公民協働による包括的な支援体制を強化し、地域福祉力の向上を目的に本大会を開催します。

=式典次第=

1. 開式のことば
2. 会長式辞
3. 功労者表彰並びに感謝状贈呈
4. 受賞者代表謝辞
5. 来賓祝辞
6. 大会宣言
7. 万歳三唱
8. 閉式のことば

=日 程=

13:00

13:30

14:20 14:30

15:10

受付	式 典	休憩	アトラクション 「民謡バラエティーショー」	閉会
----	-----	----	--------------------------	----

=アトラクション=

テレビやラジオでおなじみの 「民謡日本一 小野花子さん」による 民謡バラエティーショー

<小野花子 プロフィール>

秋田市出身の民謡歌手。子供のころから民謡が好きで、昭和 38 年、秋田民謡の大家・成田与治郎師の内弟子となり、その後、尺八演奏家・鎌田寛水師に師事。昭和 40 年、NHK のど自慢全国コンクールで二位入賞。昭和 44 年、日本民謡協会全国大会で「秋田船方節」を歌い優勝。昭和 53 年 8 月、「秋田長持唄」でキングレコードからデビューし、同年 10 月・日本テレビ「第一回・日本民謡大賞」で民謡日本一となる。

以降、「民謡王国」と形容される秋田県出身の実力派民謡歌手として第一線に立ち活躍し、秋田民謡の歌い手として全国を舞台に活動する。また、秋田弁の親しみやすいキャラクターで、秋田県の各放送局制作番組に多数出演。現在は秋田放送のラジオ番組「花ちゃんの民謡は日本一」のメインパーソナリティーを務めている。

平成 16 年、24 時間テレビの秋田放送の企画で「ABS チャリティー音頭」をリリース、番組内でも歌われている。

民謡以外では平成 4 年に、結婚する新郎の母の新郎新婦に対するはなむけの心を歌った演歌「罇（はなむけ）」をリリースした。

平成 30 年、公益社団法人日本民謡協会より最高栄誉である「民謡名人位」を受ける。（民謡名人位は昭和 44 年に創設され、全国で 45 人目。秋田県出身者としては初代浅野梅若、藤丸東風、斉藤京子、佐々木寛、佐々木貞勝に続き 6 人目）

令和 6 年、地域文化功労者。

令和7年度 美郷町社会福祉大会表彰者名簿

【美郷町社会福祉協議会長 表彰状】

※敬称略・順不同

受 賞 区 分	氏 名	
善行・奉仕活動	高 橋 リ ン	
	大 阪 誠 次	
福祉団体（役員）	美郷町更生保護女性会	鶴 谷 志 津 子

【美郷町社会福祉協議会長 感謝状】

※敬称略・順不同

高額寄付者	福 島 一 博
	六郷中学校十五期生傘寿祝いの会

【秋田県共同募金会長 表彰状】（伝達）

※敬称略・順不同

役職員功労者	竹 村 裕 美 子
高額寄付者	元 南 電 気
	社会福祉法人 慈泉会
	株式会社 KYO 湧水の郷



おめでとうございます



大会宣言（案）

私たちの住む美郷町は、豊かな自然に恵まれた美しい町です。

しかしながら、全国的な問題と同じく、年々人口が減少、少子高齢化が進んでいます。

また、私たちを取り巻く環境の変化は非常に大きく、生活課題の複雑化や複合化も進んでいます。

このような中、だれもが安心して暮らすことのできる町にするためには、住民ひとりひとりが主役となり、個々が抱える問題を真剣に受け止め、行政・福祉・保健・医療・教育・ボランティア等の様々な分野が連携し、活動を発展させていくことが求められています。

「みんなで支え合いよろこびあふれ湧くまち」の実践にむけ、地域に関心を持ち、お互いを尊重し合い、地域社会の一員として「地域福祉活動計画」のもと、安心・安全のまちを創り上げていく必要があります。

この住み慣れた地域で暮らしていく私たちの思いやりと心の伝わる『やさしい未来』を創るため、令和七年度美郷町社会福祉大会において次のことを誓います。

- ひとつ 一．共に手をつなぎ支えあふ地域づくりの推進につとめます
- ひとつ 一．安心していきいき暮らす生きがい活動の推進につとめます
- ひとつ 一．地域福祉を支える人材育成活動の推進につとめます

以上宣言します。

令和7年11月1日

令和7年度 美郷町社会福祉大会